

## 1. 学校教育目標

### 〈教育目標〉

- ◎自ら進んで 学びとる子ども (知育)
  - 礼儀正しく 思いやりのある子ども (徳育)
  - 心と体を鍛える子ども (体育)
- ◎重点目標 ○支える目標

### 〈今年度の重点目標〉

知・徳・体の調和のとれた生きる力をはぐくむマナウス日本人学校

### 〈目指す児童生徒の姿〉

- 自ら考え、判断し、主体的に行動できる児童生徒
- 互いの個性を認め合い、国際感覚豊かな児童生徒
- 積極的にたくましい体力を身に付けることができる児童生徒 (目的意識)
- 思いやりや節度のある行動のできる児童生徒 (特に、あいさつと言葉遣い)

### 〈目指す学校像〉

- 子どもたちにとって、学ぶ楽しさを実感できる学校
  - ・子どもたちが主体的に考え行動し、生き生きと活気に満ちた学校
  - ・子どもが進んで体を動かし、体力づくりを積極的に励む学校
  - ・子どもたちが自分や他者を大切に思う心を育てる学校
- 保護者、振興会にとって安心と信頼のできる学校
  - ・信頼され安心して子どもを預けられる学校
  - ・教師の熱意と誠意が感じられる学校
- 職員にとって、やりがいのある学校
  - ・協働意欲があり、職員集団としてまとまりのある学校
  - ・強い情熱を持ち、教師相互が絶えず切磋琢磨し合える学校

## 2. 学校経営の基本方針

### (1) 経営方針

#### 『開かれた信頼される学校づくりの推進』

### (2) 学校経営の重点

- ① 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の精神に則り、日本国内の学習指導要領に準拠し、当地の環境を生かした教育課程を編成する。
- ② 極小規模校・少人数校であることを利点とし、個に応じたきめ細かな学習指導を充実させ、児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識技能の定着と活用力 (思考力・判断力・表現力) の向上を図る。また、学力向上の土台ともなる豊かな心や健やかでたくましい体力を育成する。
- ③ 危機管理意識を常に強く持ち、児童生徒が健康で安全に、楽しく生き生きと学校生活を送れるように、保護者や文化振興会、並びに関係機関と連携協力を図る。
- ④ 在外教育施設派遣教員としての使命「海外で学ぶ児童生徒のために全力を尽くす」を自覚し、教職員相互の信頼と協力の下、自己研鑽に努め、実践する。
- ⑤ 保護者、現地住民 (日系の人々を含む) との連携協力を図り、存在感のある信頼され開かれた学校づくりを推進する。

### (3) 経営の基盤

## 組織としての学校・情報の共有化

- ① 学校は組織体として機能したとき、大きな教育力を発揮する。そのために、
- i) 職員全体の「報告・連絡・相談(ほうれんそう)・記録」をきめ細かく行う。それにより、情報の共有化を図る。また、校長に対しては次の点を留意し、「ほうれんそう」をしっかりと行う(すべてにおいて最終的に判断と決断は校長にある)。  
※相談；相談する場合、どういう状況(理由)で、どうしたいのかというしっかりとした考えを持つ。  
※報告・連絡；相談すべき内容と、報告・連絡すべき内容をしっかりと区別する。  
※学校から出す文書については、校長に提出し指導を受ける。
  - ii) 運営組織の機能向上のため、企画委員会を中心とした協働体制の確立を図る。
  - iii) 職員会議・諸会議に対する認識をしっかりと持つ(指導の確認の場)。職員会議では確認することと連絡事項とを区別し、会議の能率化、円滑化を図る。会議は1時間程度で終わるようにする。
  - iv) チェック機能を働かせ、学校行事や活動、諸会議に不備が生じないようにする。前年度担当者との打ち合わせをしっかりと行う。
- ② 教職員の信頼関係が確立されたとき、児童生徒への教育効果は大きくなる。そのために、
- i) 児童生徒や教育(保護者等の対応)についての悩みなどを自由に語り合える職員室運営を推進する(指導交流の場、日常的に)。
  - ii) 計画的、効率的な校務運営を進める(先を見据えた計画・準備・実践)。
  - iii) 同僚性が形成され、学びの共同体としての機能を発揮する。  
※「同僚性」とは、教職員がお互いに気軽に相談し・相談される、教える・教えられる、助ける・助けられる、励ます・励まされることができる職場の人間関係。  
※日本人学校の組織体制は各都道府県、並びにシニアからなる。各地教委の考え方、教育的風習があると思うが、マナウス日本人学校として積み上げてきたこと、児童生徒のためになることを優先して考える
  - iv) 危機管理意識(教育課程の管理・安全対策等)の高揚と対策に万全を期す。
- ③ 学校が誠意と熱意を持って保護者・関係機関(振興会・総領事館・日伯など)と接したとき、学校の教育力は大きなものになる。そのために、
- i) 児童生徒の実態に応じた授業改善(教材研究)により、授業力の向上を図る。
  - ii) 率先垂範。児童生徒に対して情熱を持ち、本気で指導に当たる。
  - iii) 迅速、的確、誠心・誠意ある対応を行う(ハインリッヒの法則)。
  - iv) メリハリのある指導(ほめるところは褒め、指導すべきところは指導する)
- ④ 学校予算を有効に活用する。節約・節電できるところは積極的に取り組む。
- i) 計画的な物品の購入に心がける(毎月 消耗品、修理費各 R\$1,000 まで、コピー機維持費 R\$295 まで、什器備品 R\$300 まで、電気代 R\$3 500 まで)。
  - ii) コピー機の使用方法を工夫する(両面または縮小印刷)プリンターでのカラー印刷は極力避ける(学校要覧、日本文化コース募集など)。授業や学級通信では使用しない(必要な場合は校長に相談する)。

(4) 具体的な学校運営の推進；〈 〉は昨年度の評価。◎；よくできた ○；まあまあできた △；改善が必要

#### ① 教育課程

- 現地の特色を生かした教育課程を編成・実施・評価する〈○〉。
- 授業時数の管理と評価(主要教科における標準時数以上の確保)を行う〈△〉。  
※時数集計を行い、1学期から授業調整を行う。
- 年間指導計画を作成する(現地理解、技術、外国語活動など)〈○〉

## ② 学習指導

- 各教科等で問題解決的な学習（学習課題が明確）をより一層充実させ、児童生徒に分かる喜び、学ぶ楽しさを味わわせるための授業改善（教材研究や指導技術など）を図る〈○〉。
- 子どもたちが分かりやすい授業を実現させ、個別学習や協働学習、繰り返し学習を通して、子どもたちの主体的な学びを推進（自ら学び考える）する〈○〉。
- 校内研修を活用して統一性ある指導（昨年度，話型）を充実させる〈○〉。
- ボンジアタイムなどを活用して計算や漢字を向上させる〈◎〉。
- 標準学力テスト（CRT）の実施と分析、その分析に基づく授業改善〈○〉。
- 全国学力・学習状況調査を実施する（問題のみ）〈△〉
- 読書活動など、あらゆる機会を通じた言語活動の充実〈○〉。
- 各種検定を実施する。〈○〉。
- 日本文化コースにおいては、個の実態に応じた日本語の習得を図る〈◎〉。

## ③ 生徒指導

- 全教職員の共通理解を図り、規範意識を育成する（「してはならないこと」「すべきこと」をしっかりと教える）。
  - ・時と場に応じたあいさつの励行，言葉遣いやマナー〈△〉，学校の基本的なルールを守ること（名前の呼び方など）。
- 児童生徒に自己存在感や自己決定の場を与え，その時その場で何が正しいのかを判断し，自ら責任を持って行動できる能力を培う（自己指導能力の育成）。

## ④ 道徳指導

- 学校の教育活動全体を通して，道徳的な心情，道徳的判断力，道徳的な実践意欲や態度などの道徳性を養う。
- 自己の生き方についての考えを深め（特に，自己肯定感や自尊感情）、人間としてよりよく生きていこうとする道徳的実践力を育成する。〈○〉
  - ・全校道徳の人材を活用して、生き方なども考えさせる〈○〉。

## ⑤ 特別活動

- 学級活動を通して，話し合いのルールやマナーを学び，集団の中での自己の生かし方を身につけさせる。
- 異年齢集団の交流により、所属感や連帯感を深め、リーダーシップを発揮させるとともに，思いやりの心をはぐくむ。〈◎〉
- ゆとりある集会活動を実施する（特に，計画性のある全校朝の会の実施）。

## ⑥ 総合的な学習の時間

- アマゾン、マナウスの自然、歴史、生活習慣などから課題を見つけ、創造的、探究的、協同的に取り組む態度を育成する。〈○〉
- 地域素材を生かした体験的活動を充実させる。〈○〉

## ⑦ 外国語活動

- 英語ノートなどを活用した年間指導計画の整備を行う。〈○〉
- ポルトガル語と英語活動（中学部英会話週 1 時間）を充実させる〈◎〉。
  - ・外国語発表会の実施（表現力の育成）〈◎〉
  - ・生きて働く言語としてのポルトガル語の活用（現地校交流など）〈○〉

## ⑧ 学級経営

- 相互信頼関係に基づいた学級経営を充実（教育相談、確かな児童生徒理解）させる。〈◎〉
- 家庭と連携協力して基本的な学習や生活習慣を確立（家庭学習の手引きの活用）させる。〈○〉
- 将来に対する目的意識をしっかりと持たせた進路指導を充実させる。（中学部）〈○〉
- 個に応じた指導や教育相談活動（個人相談）の充実に努める〈◎〉。
  - ・いじめなどを未然に防ぐ。　・指導交流の活用（情報の共有化）

⑨ 国際理解教育

- 全日コース、日本文化コース相互の交流を大切にした教育活動を充実させる<◎>。
- 日本文化を大切にした学校行事・諸活動を推進させ、自国理解を深める。<◎>
- 現地の環境・文化についての理解を深める教育活動を推進する。<○>

・総合的学習の時間、現地弁当・ボイダンスなど

- 現地校交流、地域教材や人材を活用して国際感覚の豊かな児童生徒を育成する<◎>

・ジョゼフィーナ校、ジジャウマ・バチスタ校、UFAMとの連携

⑩ 健康安全

- 年間を通じた体力づくりを推進（体育の授業、アララ、体育的行事など）する。<◎>
  - ・発達段階に配慮した指導 ・運動習慣の確立《みんな遊びなど》
- 新体力テストの継続実施と分析を行う（全国平均以上を目指す）。<◎>
- 学校施設・設備の定期的・日常的な安全点検（月初め）を実施する（施錠も）。<◎>
- 『自分の命は自分で守る』という予防意識の向上を図るための実践をする。<◎>
- 危機管理マニュアル（毎年改訂）を活用した安全指導を行う。<◎>
  - ・スクールバス利用、避難訓練、スクールバス運営委員会との連携
  - ・突発的な危機に対する対応（教師側にとっても）

⑪ 研修

- 教師の専門性や資質・能力を高めるための研修を充実させる。<○>
  - ・教師相互の積極的な授業公開（学びの共同体として）・現地調査研究の推進
- 全教職員が研究主題達成に向けて実践し、それにより成果が感じられる校内研修を推進する。（研究内容の明確さとその成果）<○>
- 複式による学習指導の研修を継続的に行う<○>。

⑫ 教育環境の整備・充実

- 児童生徒の安全が担保される教育環境づくりを推進する。<◎>
- 児童生徒が過ごしやすい教育環境を整備する（体育館や校舎天井補修予定）<◎>。
- 教室、廊下、校舎外等の環境整備及び美化活動を推進する。<○>
  - ・普段からの教材等の整備・点検

⑬ 保護者・マナウス日本文化振興会・日伯協会等との連携協力

- 積極的に情報発信（学校だより、学級通信、HPなど）を行う<◎>。
- 説明責任や結果責任を果たす（日曜参観日での学校説明・学校評価の活用）。<△>
- 参観授業週間の設定や諸行事等により積極的に学校の様子を公開する<◎>。
- 保護者ボランティアを効果的に活用する。（読み聞かせ、清掃、ダンス指導、教科など）<△>
- 積極的な現地情報の収集と情報の共有化を図る。<○>
- 現地地域（特に、日系社会）と連携して地域行事へ積極的に参加する。<○>

マナウス日本人学校の存在意義を絶えず問いたいと考える。

- ◎子どもたちにとって、『通いたい学校』『通ってよかった学校』となっているだろうか
- ◎保護者にとって、『通わせたい学校』『通わせてよかった学校』となっているだろうか
- ◎日本文化振興会にとって、『安心して任せられる学校』『日本から赴任させたい学校』になっているだろうか

児童生徒や保護者にとっては、現在のことであり、帰国してから感じることであると思う。ただ、自信をもって、『マナウス日本人学校に来てよかった』といつまでも感じられる学校でありたいと考える。

そのために我々は、児童生徒のために何ができるかを考えたい。